

あさくらっこおめでとう



申込期間 4月生まれ(4月号)の申込は
3月8日(金)まで

申込条件 満1~3歳の子どもが対象。定員18人
(先着順)。申込多数の場合、満1歳の
子どもを優先して掲載します。

申込方法 ①メール(jinji-kouhou@city.asakura.lg.jp)
写真データを添付し、子どもの氏名(ふりがな)・生年月日・住所・
連絡先(保護者氏名)を明記。送信後、市人事秘書課(☎22-1117
/平日8時30分~17時15分)へ電話してください。

②来庁
写真データを、市人事秘書課(本庁3階)または朝倉・杷木支所民
窓口係(1階)へ(USBメモリ不可)。

前向き子育て定期便 皆さんの子育てが少しでも楽しくなるように子育てカアップを支援する「前向き子育て応援」。
誰だって子育て中は迷い悩めます。「なぜ?片づけられない?」「なぜ?食べない?」「なぜ?下の子に意
地悪する?」そんな日常の「なぜ?なぜ?」に、前向き子育てで「なるほど、そういうこと」と小さなスツ
キリ。前向き子育てプログラムの具体的な内容を定期的にお届けしていきます。

問 市子ども未来課(☎28-7568)

「片付けなさい」ではなく「一緒に片付けよう」
子どもにとって、たくさんのおもちゃを出して散らかすことも楽しい遊びの一部です。例えば、「絵
本を並べる」「電車を置く」「ブロックを積み上げる」など大人の想像を超える遊びをします。子ど
もは遊びを通して自由な発想で知的好奇心を育みます。楽しい時間を過ごしているからこそ、子ども
は片付けの時間を嫌がったり、時間がかかったりします。

このような状況で、親が片付けてしまうと、子どもは「自分は片付けはしなくてもよい」と学び、片付けることを覚えま
せん。片付けが身につくまでは、親の手助けが必要です。例えば、「片付けの時間なので一緒にしようか?ママは線路を
片付けるね~」など親が楽しく率先して片付けてみませんか?子どもが片付けできたら、褒めるようにしましょう。



あさくらぎずなメール
妊娠・子育てのメッセージが
LINEで届く▶▶▶

3月の催し

母子健康手帳交付
《市健康課》平日8時30分~17時
■持ってくるもの
妊娠届出書、マイナンバーと本人確認ができるものなど

子育て応援プログラム
※各教室とも、場所はピーポート甘木保健福祉センターです。
参加時には、母子健康手帳が必要です。

マタニティクラス(母親学級)
おいしいおっぱいのための食事について。調理実習・試食あり。
■日時...12日(火)9時30分~12時
※8日(金)までに要予約
■持ってくるもの...筆記具、エプロン

もぐもぐ教室
離乳食を始める生後4~6カ月の乳児と保護者の皆さんへ。
■日時...21日(木)10時~12時
※第2子以降の人は14日(木)までに要予約
■持ってくるもの...筆記具、エプロン

すくすく(育児)相談
子どもの成長、母乳、離乳食、遊び、歯みがき、トイレなど、気軽
にご相談ください。身長・体重の計測も行っています。
■日時...13日(水)10時~11時30分
■持ってくるもの...バスタオル1枚
※母乳相談の受付は11時まで。別途フェイスタオル3枚持参。

にこにここども相談
ことばや行動、発達について、専門のスタッフが相談に応じます。
■期日...26日(火) ※要予約(時間は予約後に案内します)

乳幼児健診(対象者に個別で通知します)
【甘木・朝倉地域の人】

対象	日
4カ月児(令和5年10月生)	5日(火)
10カ月児(令和5年4月生)	6日(水)
1歳6カ月児(令和4年8月生)	7日(木)
3歳児(令和3年2月生)	8日(金)

■時間...12時45分~
■場所...ピーポート甘木保健福祉センター
■持ってくるもの...母子健康手帳
■健診内容...身長体重測定、小児科医による診察、育児・栄養相談
《4カ月児》母乳相談
《4カ月児・1歳6カ月児》ブックスタート
《10カ月児・1歳6カ月児・3歳児》歯みがき相談
《1歳6カ月児・3歳児》心理相談、歯科健診
《3歳児》尿検査、視覚検査
問 申 市健康課(☎22-8571)

おはなし会
各図書館で、絵本の読み聞かせのほか、
わらべうたと一緒に歌ったり、みんなで
手遊びをしたりします。

【中央図書館】
おはなし会(幼児~小学生向け)
■日時...毎週土・日曜日14時~
ぴよぴよおはなし会(0~2歳児向け)
■日時...13日(水)、20日(水・祝)11時30分~

【あさくら図書館】
あかちゃんおはなし会(0~1歳児向け)
■日時...2日(土)11時~
みんなのおはなし会(幼児~小学生向け)
■日時...9日・16日・30日(土)11時~
おひさまおはなし会(幼児~小学生向け)
■日時...23日(土)11時~

【はき図書館】
わくわくおはなし会(乳幼児向け)
■日時...26日(火)11時~

つどおう 子育て広場

親子が気軽に集い交流したり、育児相談を行ったりしていま
す。詳しい内容や行事などはそれぞれの広場まで。

● 子育てほっとサロン「つどいの広場」
(堤1413)(☎080-6439-1851)
● 生い立つ地域子育て支援センター
(菩提寺606-1)(☎24-5203)
● ひろにわ地域子育て支援センター
(入地2607-1)(☎080-8352-4178)

Pick Up
思い出のフォトカレンダーを作ろう

子育て教室の年間スケジュールをカレンダーにしています。見
やすい場所に貼って、かわいい表情の子どもを見ながら、たくさ
ん活用してください。

■日時
①7日(木)10時~11時30分
②13日(水)10時~11時30分
■場所
①生い立つ保育園 子育てルーム
②馬田コミュニティセンター 和室
※託児あり



広報文芸

年間優秀作品を発表

令和5年4月号から令和6年2月号まで、毎月応募された作品の中から選ばれた令和5年度優秀作品を俳句・川柳それぞれ5点紹介します。

俳句 (天野俊一選)

日傘して光と影をつれてゆく
甘木 仲山 尚山

【評】夏の日の中、日傘をさして歩いている人のことか、または作者自身のことなのか。強烈な真夏の光と、傘の中だけのほんの小さな影の空間を「つれてゆく」と詠まれた感性が優れています。あたかも日傘と同化して、陽炎にゆらゆら揺れている情景が浮かびます。



スーパリーの青空ステージ秋祭
甘木 吉澤 孝夫

【評】秋祭といえば神社の収穫祭をいいますが、この句はスーパリーのイベントを秋祭と詠んでいるところがおもしろいです。抜けるような秋空の下、仮設ステージでの、歌やゲーム、抽選、方言まじりのMCや子どもたちの笑い声などの様子が爽やかに伝わってきます。

登校の子ら賑やかな花の門
甘木 山下 藍

晩学の漢検目指す秋灯下
中原 矢野エイ子

薫風に足取り軽き一步かな
堤 柏木 勝利

川柳 (益永克之選)

シャッター切る四季折々のカメラ熱
千手 山崎 弘子

【評】写真はカメラマンの狙い所を撮り、川柳は身近な思いを十七音字に詠む似通った趣味です。作者の句は写真で写しとらえる対象を鮮やかにリズム感のある句に仕立てた秀句です。年の暮れに「写心と川柳」のコラボをもちやい広場で一週間展示しました。



寒さにも負けない子等の逞しき
甘木 櫻木 浩子

【評】寒空のなか、遊び楽しんでいる園児は本当に逞しいですね。作者は、我が身を振り返り、羨望のまなざしで観ているのが読み取れる佳句です。作者の思いを一句呈上して託します。寒さには少し堪える年の数

盲目の点字心の読み伝え
堤 篠原 明男

楽も苦もここに嫁いで半世紀
菩提寺 北原 妙子

雨の音暑さやわらぎ涼をよぶ
三奈木 古賀 寛子



【広報文芸応募方法】はがきまたは封書に三句以内（一人一通限り）と住所・氏名・電話番号（連絡の取れる番号）を記載し、3月8日（金）までに直接選者に応募。応募作品は、未発表・自身の作品に限る。応募の際は、今一度ご確認ください。応募は、俳句・川柳のいずれかひとつでお願いします。

■川柳次の題…「花」
■応募先…《俳句》矢野俊一さん（〒838-0068 朝倉市甘木1929-2）《川柳》益永克之さん（〒838-0061 朝倉市菩提寺523-2）

シリーズ 人権 ラグビーワールドカップから考える共生と創造



昨年、ラグビーのワールドカップがフランスで開催されました。今回は残念ながら、あと一歩のところまで1次リーグ突破はできませんでしたが、世界各国の強豪とも十分にわたりあえる実力をつけたことを示してくれました。前回大会は日本で開催され、苦戦を予想されていた1次リーグを見事突破しました。数年前までは、とてもかなわないだろうといわれていた強豪国と互角に戦う姿は感動と興奮を与えてくれました。

その活躍の中で、日本チームの参加メンバーには、外国で生まれ育った日本以外の国の出身者が多くいました。移住した国で国籍を取得した選手や、直近の5年間、その国に継続して居住するなど、大会の参加資格にのっとり選出された人たちがいます。このようなことは、日本が特別だというわけでもないようです。

多祇園山笠でも、居住する外国人が「山のぼせ」として活躍しています。生まれた国は違えども、スポーツや伝統行事を通して、互いを認め合い、尊重し合い、今住んでいる地域や国を愛していく。その姿こそが共生・創造の第一歩となるのではないのでしょうか。

生まれ育ちの違いを超えて、他者の考えや価値観について理解し、新たな価値を創造しようとするこの積み重ねによって、「争いのない世界」も実現されるのではないかと、そう願っています。

市人権・同和対策課（☎521-1174）



地域おこし協力隊通信 vol.28

朝倉に来んね〜？

移住・定住、空き家利活用活動をしていく栗林です。主に、朝倉市への移住を検討している人や、移住してきた人からの問い合わせ対応や現地を案内しています。時には、空き家購入後のメンテナンスや修繕についても問い合わせがあり、できる限りサポートしています。

3月9日に開催予定の「空き家利活用セミナー」では、空き家バンク制度の説明や漆喰塗体験ワークショップを行います。ワークショップでは、専門家の指導を受けながら、実際に古民家の壁に漆喰を塗ることが出来ます。漆喰塗りは凹凸感やコテの跡も風合いと



地域おこし協力隊員 栗林 直人 さん

して楽しむ、調湿機能や防火性にも優れている扱いやすい材料です。ぜひ一度、専門家の指導を受けてみませんか。ご参加お待ちしております。

甘木鉄道甘木駅前の駐車場内に建設中の「移住定住交流センター「コンネアスクラ」も完成間近です。4月21日にオープニングセレモニーを予定しており、オープン後は、私も「コンネアスクラ」を拠点として活動します。利用者が立ち寄りやすい身近でシニア的な施設となるよう、イベントなども開催予定です。お気軽にお越しください。

地域おこし協力隊の普段の活動は、市HPから見られます。

3月9日の「空き家利活用セミナー」の詳細は市HPへ。



▲(上)専門家と一緒に漆喰塗体験は初めての人でもOK。(下)移住者インタビュー。



「野球しようぜ」
大谷選手、グローブありがとう!



メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手が「子どもたちが野球に興味を持ってほしい」と全国の小学校に送ったグローブ。1月中旬に朝倉市内の小学校にもグローブが届き、さまざまなかたちで活用されています。

1月23日には甘木小学校の5年生が、グローブを使ってキャッチボールをしました。大谷選手から届いたグローブに児童は大興奮。「グローブを使うのを楽しみにしていた」「野球を見るのは好きだったけど、実際にグローブを使えてもっと好きになった」とうれしそうに話していました。

【フレンドリータウン】アビスパ福岡×朝倉市
健康づくり地域交流フェスタを開催



1月27日、甘木体育センターで健康づくり地域交流フェスタが開催されました。アビスパ福岡のコーチの指導のもと、各チームに分かれてレクリエーションやビンゴゲームなどを行い、優勝チームには豪華商品が送られました。

子どもたちはアビスパ福岡のコーチやマスコット「アビーくん」と「ビビーちゃん」とともに、大はしゃぎ。地域や世代を超えて交流し、参加者全員で楽しい時間を過ごしました。

平塚川添遺跡駅伝大会
遺跡内を小学生が駆け抜けた!

1月14日、平塚川添遺跡公園で少年駅伝大会が行われました。大会には、市内外から149人の小学生が参加。女子の部(5区間・約6km)、男子の部(6区間・約7km)で、児童たちがチームのためにタスキをつなぎました。当日は寒さに負けず、選手たちの熱い走りが繰り広げられ、女子の部は朝倉陸上A、男子の部は東峰RCがそれぞれ優勝しました。



杉の馬場の桜並木を剪定
美しい桜を咲かせるために

1月19日、秋月杉の馬場の桜の剪定が行われました。九州電力送配電(株)甘木配電事業所から「日頃お世話になっている市や地域に貢献したい」との思いから実現したものです。日頃業務に使用する高所作業車を活用し、秋月地区の住民と協力し、枯死した桜の枝の剪定と片づけを行いました。整枝された今年の桜の開花が待たれます。



▲(写真左から)平山さん、石橋さん、庄本さん(田中さんは表彰式欠席)



▲特選『八ちゃん堂』
(撮影時の思い)八ちゃん堂のおばあちゃんは、いつも学校帰りに手を振っておかえりと言ってくれます。撮影をお願いすると気さくに受け入れてくれて、温かさが伝わる写真を撮ることが出来ました。

「#朝倉の好きなどこ」
高校生の視点ならではの写真がズラリ

高校生目線のみずみずしい感性で朝倉の魅力を表現するフォトコンテストを開催しました。「#朝倉の好きなどこ」をテーマに23点の応募の中から入賞作品が選ばれ、1月25日に表彰式を開催。入賞者へ賞状と副賞が贈られました。

特選を受賞した朝倉東高校3年の石橋あいりさんは「毎日学校帰りに会うおばあちゃんの写真が特選となり、とてもうれしいです」と喜びを語っていました。

応募作品は、市のシティプロモーション事業に活用していきます。作品は、市HPや市Instagramから見る事ができます。パソコンやスマートフォンの壁紙に設定するなど、ぜひご活用ください。



▲入選作品(左から)
『川のほとりにうつる夕日』朝倉光陽高校 1年 平山晃菜さん
『母、童心にかえる』朝倉高校 3年 庄本芽生さん
『売り切れちゃった...』久留米高校 2年 田中七生子さん

福田小学校が能登半島地震の募金活動
子どもたちの思いを被災地へ

能登半島地震の被災地を支援するため、福田小の児童たちが声を上げ、募金活動が行われました。2月2日、児童会代表5人により、集まった募金が朝倉市教育長に手渡され、日本赤十字社を通じて被災地へ送られました。活動を行った6年生の下川さんは「自分たちで考えて行動したことはいい経験になった」と話していました。



能登半島地震の被災地で活動
朝倉医師会病院のDMATが医療支援

能登半島地震の被災地で医療支援にあたった同病院のDMATのメンバーが、2月2日に活動内容の報告会を行いました。1月23日～26日の期間に現地へ派遣されたメンバーは、穴水総合病院(石川県穴水町)で長距離患者搬送や病棟支援などに従事。派遣された草場看護師は「今後も自分たちができる限りの支援を行いたい」と話していました。



あさくらびと

地域で話題になっている人や団体、企業などを紹介するシリーズ。

第28弾は、有機農業を学べる農業ビジネススクール「アグリガーデンスクール&アカデミー福岡本校」の皆さん取材しました。

Interview

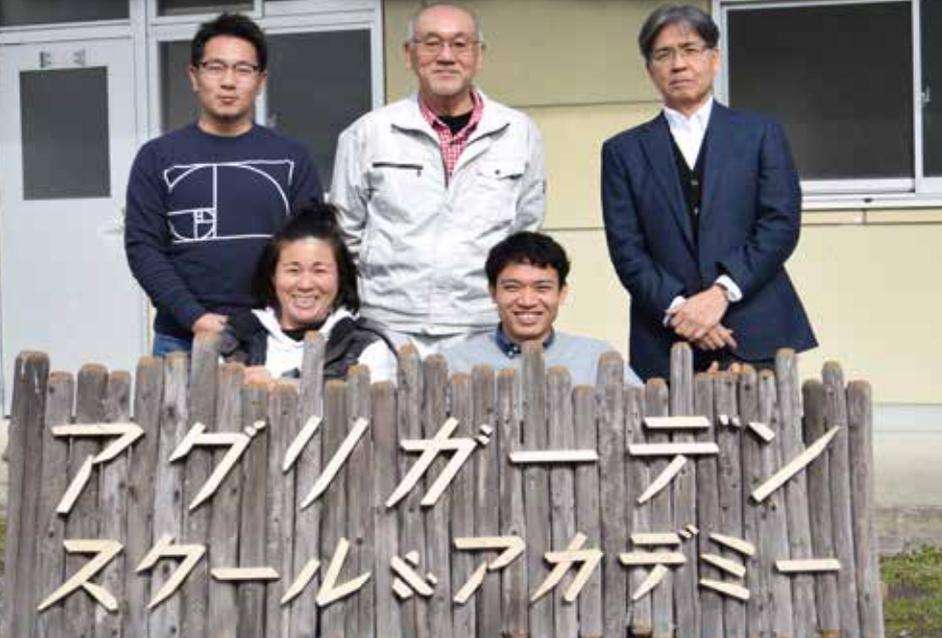
(株)アグリガーデン
スクール&アカデミー
代表取締役社長

堂脇 広一さん

校長 寺崎 博史さん

堂脇さんは、長年、農業農村の活性化コンサルティングに携わる。平成26年10月に「アグリガーデンスクール&アカデミー福岡本校」を朝倉市に開校。

(写真の後列右から1人目が堂脇さん、2人目が寺崎さん、そのほかスタッフの皆さん)



偶然の出会いが生んだ縁

アグリガーデンスクール&アカデミー福岡本校(AGSA)は創立10年目を迎えました。開校前、農業農村の活性化を目的に、廃校を活用して農業学校をつくる構想があり、全国を探していました。九州に行く機会があり、偶然、朝倉農業高校跡地の存在を知りました。広い敷地は緑も豊富で校舎も残り、農業実習に最適。農業高校として100年以上の伝統と歴史もあり、強い縁を感じました。跡地を盛り上げたいと、朝倉農業高校のOBの皆さんも応援してくれ、AGSAを開校できました。

1期生は7人と少人数のスタートでしたが、今では卒業生は全国に約260人。卒業後もAGSAに関わってくれている人も多く、一つのコミュニティが形成されていると感じます。人と人とのつながりを大切にしているAGSAの特徴でもあります。

健康につながる農業を目指して

AGSAでは「健康に直結する農業」をテーマに講座を行っています。受講生は「子どもには体にいいものを」「仕事の幅を広げるために」「家庭菜園をレベル

アップしたい」など目的はさまざま。出身、年齢、職業なども幅広いですが、皆同じ思いを持って有機農業を学んでいます。

農業の根底にあるのは土。土壌の栄養価を数値化し分析しています。同じ土でも管理の仕方ひとつで、作物の育ち方はまったく変わってきます。良質な土があれば、おいしく健康に育った作物ができ、それを食べることで人の健康につながります。

また、敷地内で「AGSAMARシエ」を月一回開催。卒業生などが育てたおいしい作物を販売しています。生産者と消費者が直接接することができ、新たなつながりを生む場所でもあり、AGSAで特に大切にしている取り組みです。

朝倉から全国へ

開校当初は、特に市外から人を呼び込む場でしたが、近年市内の受講生もおり、地域の皆さんも興味・関心を持っていただいていると感じます。また、卒業生の中には、農業を軸にビジネスを行い、市内に移住する人もいます。

今後も地域とのつながりを大切にしつつ、ここでの成功事例を他の地域でも生かしていきたいと考えています。「朝倉から全国へ」の思いとともに――。

アグリガーデン スクール&アカデミー福岡本校 (三奈木 3070 ☎ 23-8257)



懐かしさを感じる教室での座学や広い敷地内での畑実技で、本格的な有機農業を学びます。農業を科学的に捉えた土づくりで、高品質・多収穫・高栄養を目指します。

AGSA マルシェは毎月第2土曜日10時～13時に開催。有機野菜やオーガニックスイーツのほか、キッチンカーも多数出店しています。

11期受講生を募集中!

■受講期間…令和6年4月24日～令和7年3月12日

■募集資格…土・植物・人の健康につながる農業に関心のある人

■募集期間…4月中旬まで(定員になり次第終了)

※新規就農者研修部門は入校審査あり。カリキュラム、受講料など詳細はAGSAのHPへ。



有機で就農応援



▲市では受講料を一部補助しています。詳細は市HPへ。